

P-B-1

肺癌患者の術前術後の身体活動量と心理状態の変化

The change of physical activity and psychological adjustment in lung cancer patients

平井 啓^{1,2)}, 伊藤 直²⁾, 荒井 弘和³⁾, 湯川沙世子¹⁾, 須見 遼子¹⁾,
井倉 技¹⁾, 澤端 章好⁴⁾, 奥村明之進⁴⁾, 伊藤 壽記¹⁾

1) 大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座, 2) 同コミュニケーションデザイン・センター
3) 大阪人間科学大学, 4) 大阪大学大学院医学系研究科呼吸器外科

This study attempted to explore the change of physical activity and psychological adjustment of lung cancer patients. The study revealed the significant change of physical activity between pre-discharge, pre-surger, post-surgery, and post-discharge, and significant relationship between psychological adjustment and physical activity.

【目的】

術後の肺癌患者を対象として、日常活動性を高めQOLを改善する補完医療的介入プログラムを開発中である。本発表では、そのベースラインデータを用いて、手術を受ける肺癌患者の身体活動量、心理状態の変化を検討した。

【方法】

本研究は前向き観察研究である。対象者は、術前の入院前から研究に参加することができた肺癌患者6名であった。対象者は、同意書に署名し、約4週間の研究に参加した。研究開始時と開始から4週間後の終了時に質問紙への回答を求めた。身体活動は、uniaxial加速度計(ライフコーダーEX[®], スズケン社製)を用いて記録された。心理状態の指標は、Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS) 日本語版、がん患者の自己効力感尺度(SEAC)を用いた。

【結果】

対象者の平均年齢は、 62.3 ± 8.1 歳、男性4名、女性2名であった。術後入院中で質問紙調査から5日間の平均歩数は 3531.8 ± 1236.9 歩、退院直後5日間の平均歩数は 1963.9 ± 915.4 歩、退院後外来での質問紙調査直前の5日間の平均歩数は 4337.5 ± 1791.2 歩であった。平均歩数は入院前 8994.47 ± 5210.64 歩、入院日から手術日まで 5807.9 ± 1270.7 歩、手術日から退院日 2780.3 ± 1342.4 歩、退院日から1回目外来まで 3662.1 ± 971.5 歩、1回目外来以降が 5226.7 ± 2153.4 歩であった。繰り返し測度の分散分析の結果、時間経過に伴い平均歩数が有意に変化し($F(4, 20) = 7.48, p < .01$)、入院前の平均歩数と他の4つの期間の歩数が有意に異なることが明らかになった。心理状態の変数と平均歩数との間には有意な関連は認められなかった。

【結論】

肺癌患者の身体活動量は手術により一時的に低下するが、その後回復していく傾向があることが明らかになった。よって歩数計による身体活動量の評価はQOL評価の一つとして利用可能である可能性が示された。一方で、解析対象者が少なく身体活動量と心理状態の指標とは有意な関連が見られなかった。対象者を追加し、より詳細な解析が可能になるように研究を進めていく必要があると考えられる。